

U.S. Indicators

発表日: 2020年5月7日(木)

米国4月ISM非製造業指数は戦後最悪の景気情勢示唆

～企業活動、新規受注、雇用が過去最低水準に悪化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

米国では、3月中旬以降に実施された新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためのロックダウンや、外出制限、イベントの中止、店舗の休業、工場の操業停止による一部の経済活動の休止を背景に、企業活動は3月以降急激に悪化した。米政府・議会が雇用維持のための3兆ドル規模の支援策を実施しているが、先行き不透明感が強いなか、企業活動は低迷を続けている。

20年4月のISM非製造業景気指数（総合、季節調整値）は、41.8（前月52.5）と市場予想中央値38.0（ブルームバーグ集計）を上回ったが、前月比10.7%p低下し、09年3月の40.1以来、11年ぶりの低い水準となった。

もともと、4月の非製造業の企業活動はヘッドラインが示す以上に悪化している。総合指数の算出項目をみると、入荷遅延が78.3と前月比+16.2%p上昇した一方、活動指数が26.0（前月比▲22.0%p）、新規受注が32.9（前月比▲20.0%p）、雇用が30.0（前月比▲17.0%p）と急低下した。総合指数の構成項目である入荷遅延は通常需要が強いときに上昇し指数を押し上げるが、4月はサプライチェーンの毀損によって統計作成以降の最高値に上昇し、総合指数を押し上げた。他方、活動指数、新規受注、雇用は97年の同統計作成以降の最低値となっており、非製造業の企業活動が過去最悪の状態であることを示している。なお、総合指数への寄与度では、入荷遅延が前月比+4.05%pの押し上げ寄与となった一方、活動指数が前月比▲5.50%p、新規受注が前月比▲5.00%p、雇用が前月比▲4.25%pの押し下げ寄与となった。

サブ項目では、新型コロナウイルスのパンデミックへの対応に伴うサプライチェーンの毀損や各国経済活動の一部停止などによって、新規輸出受注が36.3（前月比▲9.6%p）と大幅に低下しており、米国輸出の大幅減少を示している。

企業からの報告では、新型コロナウイルスによるサプライチェーン、経営耐久力、人的資源、金融への継続的な影響、事業再開と正常化への不確実なタイムラインについて懸念していることが指摘された。

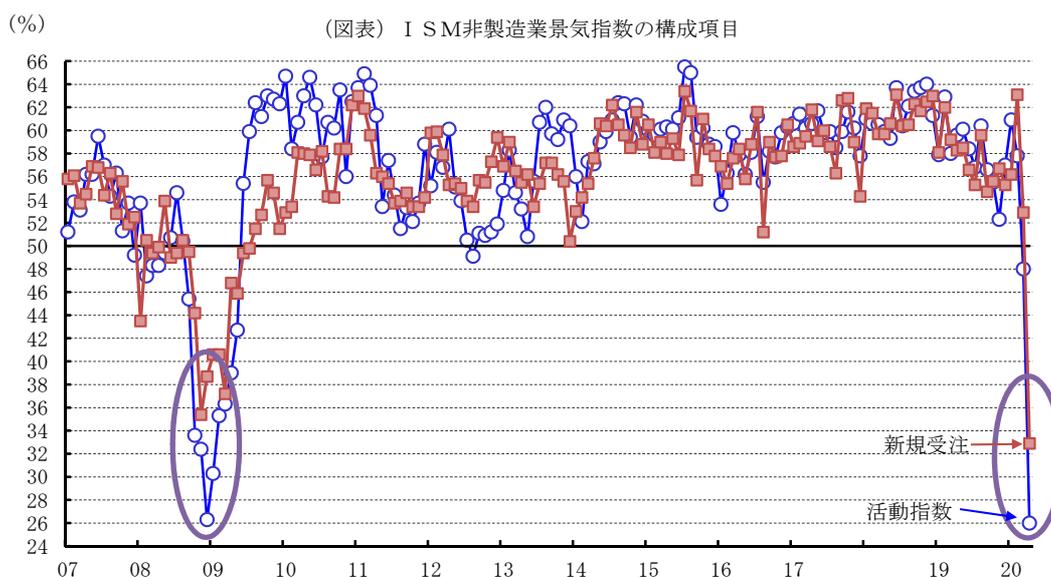
インフレ面では、航空貨物、クリーニング製品、消毒剤、手の消毒剤、イソプロピルアルコール、用務用品、医療サービス、医療用品、個人用保護具（PPE）、マスク、手術衣、人工呼吸器などの押し上げによって仕入価格DIが55.1と上昇し、新型コロナウイルスの感染拡大で需要が強まっている財を中心に価格上昇圧力が強まっていることを示唆している。供給不足の部門として、建設労働者、派遣労働者の不足が指摘されたほか、商品では、医療用品、個人用保護具（つなぎ服、ガウン、マスク）、手術用ガウン・マスク、アルコール、消毒剤、衛生用品、コンピューターなどの不足が報告された。

4月の業種別の動向では、拡大した業種は、公的部門、金融・保険の2業種と全18業種中2業種の拡大（3月9業種）にとどまった。一方、縮小した業種は、宿泊・飲食サービス、企業向けサービス、鉱業、不動産業、その他サービス、建設業、医療・社会支援、卸売業、運輸・倉庫、教育サービス、専

門・科学・技術サービス、公益、情報産業、小売業芸術・娯楽・レクリエーション、農林水産業の16業種（3月9業種）に増えた。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数で合成）」は、4月に41.8と3月の52.2から10.4%p低下した。1－3月期の54.6から急低下し、4－6月期の実質GDP成長率が1－3月期の前期比年率▲4.8%からマイナス幅を大きく拡大していることを示唆している。

今後について、4－6月期に実質GDP成長率が40%程度落ち込んだ後、7－9月期には5、6月の州ごとの段階的な制限解除によって、経済活動は上向くと予想される。もっとも、新型コロナウイルスの感染が完全に終息するわけではないため、3密の回避など様々な制約を受けることから、景気のV字回復は困難であろう。このような状況のもと、ISM非製造業景気指数、総合景気指は大きく落ち込んだ後、比較的早期に50を回復するものの、それは前月比での改善傾向を示すに過ぎない。



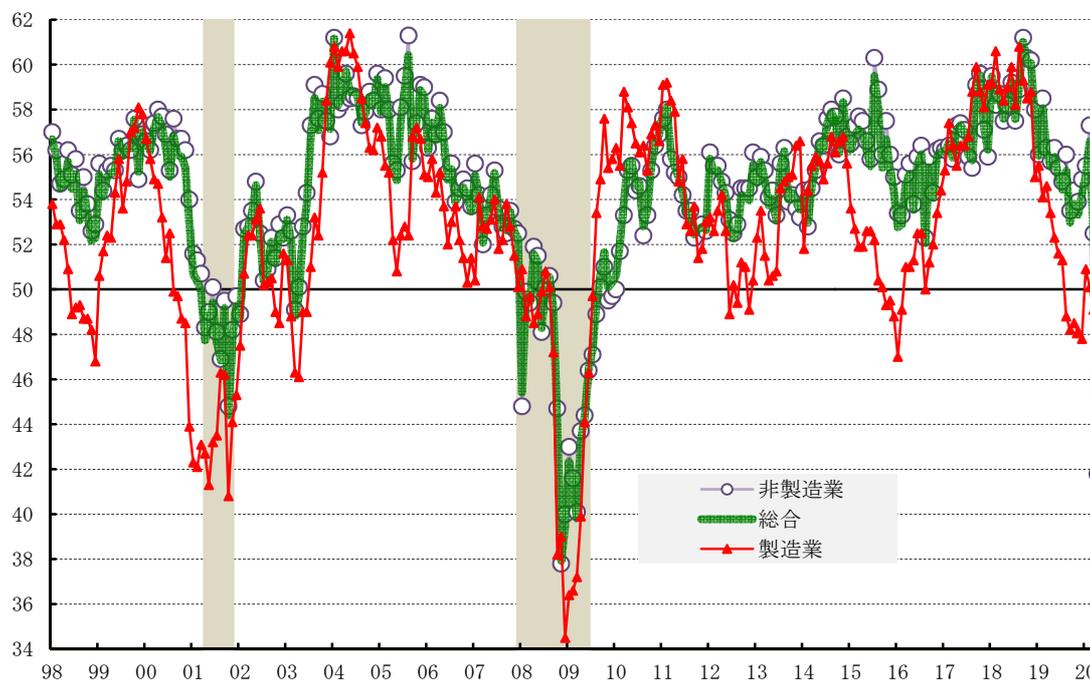
(出所) ISMデータより加工

I SM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	輸入	在庫変動
19/04	55.7	59.6	58.3	54.5	50.5	55.0	55.6	57.0	55.0	51.5
19/05	56.3	60.1	58.5	57.1	49.5	52.5	56.0	55.5	50.0	54.0
19/06	55.4	58.4	56.6	55.2	51.5	56.0	58.8	55.5	50.0	55.0
19/07	54.8	56.8	55.3	55.7	51.5	53.5	57.0	53.5	53.5	50.0
19/08	56.0	60.4	59.6	53.7	50.5	49.0	58.4	50.5	50.5	55.0
19/09	53.5	56.6	54.7	51.7	51.0	54.0	59.3	52.0	49.0	53.0
19/10	54.4	55.5	55.6	53.9	52.5	48.5	57.3	50.0	48.5	50.5
19/11	53.9	52.3	56.7	54.9	51.5	48.5	58.8	52.0	45.0	50.5
19/12	54.9	57.0	55.3	54.8	52.5	47.5	59.3	51.0	48.0	51.0
20/01	55.5	60.9	56.2	53.1	51.7	45.5	55.5	50.1	55.1	46.5
20/02	57.3	57.8	63.1	55.6	52.4	53.2	50.8	55.6	52.6	53.9
20/03	52.5	48.0	52.9	47.0	62.1	55.0	50.0	45.9	40.2	41.5
20/04	41.8	26.0	32.9	30.0	78.3	47.7	55.1	36.3	49.3	46.9

(出所) I S M

I SM景気指数の推移



(出所) I S M

(注) シャド一部は景気後退期。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

